

質量 m の粒子に中心力 $V(r)$ が働くシュレディンガー方程式を極座標で書くと、 \vec{l} を角運動量演算子として $\hbar^2 \frac{\partial}{\partial r} \left(r^2 \frac{\partial \Psi}{\partial r} \right) + 2mr^2(E - V)\Psi - l^2\Psi = 0$ となる。この解を変数分離して $\Psi = R(r)\Phi(\varphi)\Theta(\mathbf{q})$ とすると、 \mathbf{n}, \mathbf{l} を定数として $\frac{1}{\sin \mathbf{q}} \frac{\partial}{\partial \mathbf{q}} \left(\sin \mathbf{q} \frac{\partial \Theta}{\partial \mathbf{q}} \right) + \left(\mathbf{l} - \frac{\mathbf{n}}{\sin^2 \mathbf{q}} \right) \Theta = 0$ 及び $\Phi'' + \mathbf{n}\Phi = 0$ が成り立つことがわかる。この角度依存部分 $\Theta(\mathbf{q})\Phi(\varphi)$ が前回の $F_j^m(\mathbf{q}, \varphi)$ に一致することを示そう。

0) 規格化された波動関数 $\Phi(\varphi)$ は $\Phi(\varphi) = e^{im\varphi} / \sqrt{2\pi}$ (m は整数で $\mathbf{n} = m^2$) となることを示せ。ヒント 規格化条件は $1 = \int_0^{2\pi} |\Phi(\varphi)|^2 d\varphi$ である。

1) $\Theta(\mathbf{q})$ の満たす微分方程式で、変数変換 $z = \cos \mathbf{q}$ ($|z| \leq 1$) を行い、 $P(z) = \Theta(\mathbf{q})$ に関する微分方程式 $\frac{d}{dz} \left((1-z^2) \frac{dP}{dz} \right) + \left(\mathbf{l} - \frac{m^2}{1-z^2} \right) P = 0$ を導け。

2) 上式でまず、 $m=0$ の場合の解(ルジャンドルの多項式)を求める。 $P(z) = \sum_{n=0} c_n z^n$ とした時、解が $|z| \leq 1$ で有限となる為には正の整数 l に対して $\mathbf{l} = l(l+1)$ でなければならないことを示せ。ヒント z^n の係数を比較して c_n に関する漸化式を導き、 n が大きな場合にどうなるか調べればよい。

3) ルジャンドルの母関数 $(1-2rz+r^2)^{-1/2}$ を r についてテイラー展開 $= \sum_{l=0} P_l(z)r^l$ すると、係数 $P_l(z)$ が $m=0$ の場合の前問 1) の微分方程式を満たすことを示せ。ヒント 両辺の対数を取り、各々 r または z で微分することにより、 P_l の漸化式を 2 つ作る。

4) ロドリゲの公式 $P_l(z) = C_l \frac{d^l}{dz^l} (z^2-1)^l$ によって得られる P_l が $m=0$ の場合の前問 1) の微分方程式を満たすことを示せ。また、3) の母関数によって得られた P_l と一致させるように規格化定数 C_l を求めよ。ヒント $w \equiv (z^2-1)^l$ とおくと $(z^2-1)w'' - 2(l-1)zw' - 2lw = 0$ となることを示し、さらにこの式を l 回微分せよ。規格化は $z=1$ での値に着目すればよい。

5) ルジャンドルの陪関数(associated Legendre function)を $P_l^m = (1-z^2)^{m/2} \frac{d^m P_l}{dz^m}$ と定義する。これが(1)の微分方程式を満たすことを示せ。また、この関数は $m \leq l$ 以外ではゼロになることを示せ。ヒント $m=0$ の場合の 1) 式を m 回微分すればよい。

6) $\Phi(\varphi) = e^{im\varphi} / \sqrt{2\pi}$ 及び $\Theta(\mathbf{q}) = \sqrt{\frac{2l+1}{2} \frac{(l-m)!}{(l+m)!}} P_l^m(\cos \mathbf{q})$ のように規格化した解 $\Theta\Phi = Y_{l,m}$ は

球面調和関数と呼ばれる。 $Y_{l,m}$ の規格・直交性 $\int d\Omega Y_{l,m} Y_{k,n} = \mathbf{d}_{lk} \mathbf{d}_{mn}$ を示せ。ヒント

$\int_{-1}^{+1} P_l^m(z) P_k^m(z) dz$ を $l \neq k$ 、 $l = k$ の場合に分けて計算してみる。